

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		多機能型事業所 はっぴーはうす 保育所等訪問支援事業部門 えがお		公表日		2026年2月20日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと 思われる点など	課題や改善すべき点	
環境・運営・体制整備	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	3	0	新しい支援方法に対応した情報収集を強化する。/自分のスマホが使い慣れているので私はこれでいいが、自分のを使いたくない人だと難しい。	入力システムを持ち出すアイテムが個別にあるが、事業所のスマートフォンでの入力でも可能にする必要がある。	
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	1	利用児童数や支援内容に応じて、基準を満たした職員配置を行っている。/今現在は年長さんが多く、足りていないが、4月からは人数が半分になるので大丈夫だと思います。	職員の負担状況を把握し、無理のない配置体制を検討する必要がある。	
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加しているか。	2	1	職員会議において意見交換を行っている。/訪問の後、職員に様子を伝え、課題に入れたり工夫してもらっている。	一部の職員に偏らず、全員参加型の体制をさらに強化する。	
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	0	定期的に評価表を配布し、意見を把握する機会を設けている。	回収率向上のための工夫(オンライン等)の検討が必要である。	
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	0	日々の申し送りやミーティングの中で、気づきや提案を共有している。	意見交換の時間を計画的に確保していく。	
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	1	必要に応じて関係機関から助言を受けている。		
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3	0	年間研修計画を作成し、計画的に研修へ参加している。	非常勤職員も参加しやすい体制づくりが求められる。	
適切な支援の提供	8	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	3	0	アセスメントに基づき、利用児童一人ひとりの特性や課題に応じた個別支援計画を作成している。	保護者や関係機関との連携を強化し、多角的な視点で計画を見直す。	
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3	0	利用児童の体調や家庭からの連絡事項を確認し、柔軟に対応している。	打ち合わせ内容を簡潔に記録し、振り返りに活用する。	
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	3	0	訪問後もフィードバックを行い、継続的な連携を図っている。	支援効果を訪問先と共に振り返る仕組みづくり。	
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	0	担当者だけでなく、関わる職員全体で共通理解を図っている。	記録の活用方法を明確にし、職員間の理解度を高める。	
	12	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	0	訪問先施設の担任や保護者からの情報も取り入れ、多角的に評価している。	職員の評価スキル向上のための研修を充実させる。	
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	3	0	計画作成時に職員間で確認し、共通理解を図っている。	計画内容の質を高めるための内部研修や事例検討の実施。	
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	0	変更が生じた場合は速やかに共有し、柔軟に対応している。		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	0	児童の当日の状況や前回の振り返り内容を共有している。	短時間でも要点を押えた効率的な打ち合わせ方法の確立。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	0	児童の反応や変化、うまくいった点・課題となった点を共有している。	定期的に振り返り内容をまとめ、支援の質向上につなげる体制づくり。	
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	3	0	担任や施設職員と十分に協議し、施設の流れを妨げない支援方法を心がけている。	施設との信頼関係構築を継続的に行う。	

	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	3	0	記録内容をもとに振り返りを行い、次回支援に活かしている。	定期的に記録を見直し、支援の質向上に結び付ける体制づくり。
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3	0	モニタリングを実施し、目標達成状況や課題を確認している。	意向確認内容を具体的に整理し、記録を充実させる。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	0	多職種との意見交換を通して、支援の方向性を統一している。	会議内容を簡潔にまとめ、確実に共有する仕組みづくり。
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	1	個人情報に配慮しながら、適切な情報共有を行っている。	定期的な情報交換の場を計画的に設定する。
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	0	保護者の同意のもと、必要な情報を適切に共有している。	
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	3	0	研修後には報告の機会を設け、職員間で情報共有を行っている。	年間研修計画を見直し、全職員が均等に学べる体制を整える。
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	2	1		地域との協働事例を増やし、実践につなげる。
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3	0	小さな成長も共有し、保護者の安心感につなげている。	定期的な面談機会を計画的に設ける。
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	0	保護者の不安や困り感に寄り添いながら、前向きな関わりを支援している。	実施後の振り返りや継続支援につなげる仕組みを整える。
保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3	0	変更が生じた場合は速やかに文書等で周知している。	
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	3	0	初回訪問時に事業の目的や支援の流れを丁寧に説明している。	必要に応じて職員会議等で再説明を行う。
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3	0	計画作成前に保護者との面談を実施し、家庭での思いや希望を丁寧に聞き取っている。	
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	3	0	支援計画書を実際に提示しながら、目標や支援方法を具体的に説明している。	
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	3	0	定期的な面談を通じて、相談しやすい環境を整えている。	相談内容を記録し、継続支援に活かす。
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	0	毎月1回ばけっとデーがおの会を開催しています。	保護者のニーズを把握し、内容を充実させる。
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3	0		相談後のフォローアップ体制を整備し、継続的な支援につなげる。
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3	0	個人情報に配慮しながら写真や活動報告を掲載している。	
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3	0	書類やデータは施錠管理やパスワード管理を徹底している。	
36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3	0			
訪問先	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	3	0	相談内容を記録し、継続支援に活かしている。	
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	3	0	訪問後に振り返りの時間を設け、支援内容や子どもの様子を共有している。	

施設への説明等	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	3	0	訪問後に保護者へ文書で支援内容を報告している。	
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3	0	個人情報保護に関する規程を整備し、職員へ周知している。	
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	3	0	継続的な関わりを通して信頼関係の構築に努めている。	
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	0	感染症対策について具体的な手順を示し、実践している。	訓練後の振り返りを行い、改善点を共有する。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	0	年間の安全計画を作成し、役割分担を明確にしている。	
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3	0	ヒヤリハット事例を記録し、職員会議等で共有している。	
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3	0	虐待防止に関する研修を定期的実施している。	
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3	0	事前に保護者へ十分説明し、同意を得た上で計画に明記している。	身体拘束に関する研修を定期的実施し、共通理解を深める。